

で見学できたことも大きな収穫でした。

団体最優秀賞杯の行方は表彰式の直前まで知らされませんでした。審査員全員の満票で決まりましたと聞かされて驚きでした。表彰状・杯・楯を受けに出た三名は、感激が極まって笑顔を忘れた緊張気味の様子でした。優秀賞、奨励賞、努力賞を貰った子どもたちは少し頬が緩んでいました。全参加者に渡された参加賞は和洋文で記されたもので額に挙げてでも恥ずかしくないものでしたし、本部先生から直接首にかけてもらったDNBKメダルは濱田先生の激励の「未来は君たちに懸っている！」の言葉と共に参加者全員の心に響き巨り、終生忘れられない教訓を頂いた大会でありました。

団体最優秀賞杯本当に有難うございました。

団体 優秀賞

子どもたちの晴れ姿を見て

首里派空手道協会 武学館 藤原 弘喜

第二十一回全国青少年武徳祭のご成功おめでとうございます。役員先生方、スタッフの皆さんのご尽力があつてこそ、今回も武徳祭参加という貴重な経験ができたことに武学館一同大変感謝しております。

更に「団体優秀賞」という栄誉まで頂いたことは、選手だけでなく保護者の方々にとつて輝かしい誇りをそれぞれの胸の中に持つことができたと思います。

日頃の稽古は楽しいこともあれば、辛いこともあります。試合や大会に出場する選手は勝つてうれしいこともあれば、負けて涙することもあります。仲間たちと一緒に過ごす面白さもあれば、厳しい指導で挫けそうになることもあります。強くなりたいと思つて始めた武道の稽古も途中で道に迷い止めたくなることもあるでしょう。様々な思いを心に秘めつつ、みんなが同じ場で同じ稽古を続けています。全国青少年武徳祭は、そんなみんなの心が一つになるとても大切な「晴れの舞台」となっています。

白帯選手から黒帯選手まで熟練度の違う選手たちが同じ目的で一つの「舞台」を作り上げていく姿は、指導員としても親としても「武道をしていてよかった。」と思える瞬間です。決して演武の発表会に出ることが普段の稽古の目的ではありませんが、子どもたちの「晴れ姿」を見ることは、親と子のお互いにとつて大切な武道教育となつてい

と思います。日本武道は「思いやり」の精神を大切にす文化であり学問であると思ひます。勝敗に拘る競技武道では忘れがちになることもあります。が、武徳祭のような演武祭では「思いやり」の精神が不可欠と思ひます。大会を運営する多くの先生方やスタッフの皆さんの「思いやり」があつてこそ、子どもたちがのびのびと「晴れ姿」を披露できます。更に同じ道場の仲間同士、先輩と後輩などお互いに相手を思う気持ちがあつてこそ、みんなで一つの舞台を作り上げることができると思ひます。今回「団体優秀賞」を頂いたことは大変喜ばしいことであり感謝しております。それと同時に武学館の選手だけでなく、全国青少年武